









令和 2年 3月25日

野田市議会議長 竹内 美穂 様

会 派 名	政清会	代表者氏名	平井 正一	
	公明党		内田 陽一	
	民主連合		石原 義雄	
	日本共産党野田市議団		星野 幸治	
	市民ネットワーク		小室 美枝子	
	新しい風		栗原 基起	
	無所属の会		谷口 早苗	
	地域クラブ		池田 利秋	

研 修 報 告 書

研修に参加しましたので、その概要を下記のとおり報告します。

記

1 参加者名

政清会	<u>中村 裕介</u>	<u>木村 欽一</u>	<u>濱田 勇次</u>
	<u>木名瀬宣人</u>	<u>邑樂 等</u>	<u>古橋 俊夫</u>
	<u>山口 克己</u>	<u>染谷 信一</u>	<u>平井 正一</u>
	<u>竹内 美穂</u>		
公明党	<u>椿 博文</u>	<u>吉岡 美雪</u>	<u>西村 福也</u>
	<u>内田 陽一</u>		
民主連合	<u>滝本 恵一</u>	<u>小椋 直樹</u>	<u>小倉 良夫</u>
	<u>石原 義雄</u>		
日本共産党野田市議団	<u>星野 幸治</u>	<u>長 勝則</u>	<u>織田 真理</u>
市民ネットワーク	<u>小室美枝子</u>		
新しい風	欠席		
無所属の会	<u>谷口 早苗</u>		
地域クラブ	<u>池田 利秋</u>		



2 研修場所及び研修名称等

(場 所) 野田市議会

(会 場) 議会棟 委員会室

(研修会名) 野田市議会議員研修会

3 報 告

◇ 研修会等の状況

①開催日時 令和2年2月18日 午後1時30分～午後4時05分

②講師等氏名 (株)地方議会総合研究所 代表取締役 廣瀬 和彦 先生

◇ 研修の目的

予算決算の審議手法等について共に調査研究を進めていくとともに、議員の資質の向上を図ることを目的とする。

◇ 研修の内容

・講 師 (株)地方議会総合研究所 代表取締役 廣瀬 和彦 先生

・講演のテーマ

(1) 予算決算の審議手法について

(2) ICTの導入について

(3) 今後の議会改革の方向性について

・研修記録 別添のとおり

◇ 受講して参考になった点等

以下、講演のテーマごとに各会派の所見を掲載する。

1 予算決算の審議手法について

○政清会

講演の中でも野田市の予算決算の審議について、執行部から提出されている書類が少なく数字の確認等が主となり事業の進捗や評価ができない状況ではないかとの指摘があった。確かに野田市の予算決算の審議は事項別明細書を参考にページごとに進められ、提出されている行政報告書、事前

要求資料等で審査しているが、分析による問題点・成果の把握、内容理解をさらに進めるためには、事業ごとに評価できる付属資料を添付してもらうことでより理解が深まると考えられる。

また、審議手法ということで委員会の在り方については次のような議員各人の考え方があった。

- ・現行の4 常任委員会に予算・決算特別委員会方式
- ・現行の4 常任委員会を3 常任委員会にし、予算・決算特別委員会方式
- ・現行の4 常任委員会を3 常任委員会にして、現在の予算決算特別委員会を常任委員会にする方法
- ・常任委員会方式で各分科会に付託する方式
- ・半数程度の議員が委員会を構成し、決算予算を交代で審議する方式

上記のような考えが提起されたことから、委員会の在り方についてはさらに検討すべきと考える。

○公明党

・予算決算特別委員会に付託し、各常任委員会を分科会として設置し審査する方法については、現在の野田市議会のやり方と近いので、検討したい。

・現在の野田市は、資料が少ないと思われる。分科会方式で一步審議が深まればと思い、検討の余地があると思う。

・予算決算とも、事業別の詳細なる資料を説明資料として添付し審議したいと考える。

○民主連合

野田市議会においてはこれまで事項別明細書により、ページごとに数字の部門のチェックが主であり、十分な審議は果たされていない。執行部からの具体的な説明資料等も少ないが、議会としても執行機関に対する事前の聞き取り調査もできていないことから議論の時間がない形での認定審査会となっている。予算、決算については住民へのサービスであることから、議会が頑張ったから決算を踏まえて予算が成立したことでアピールする唯

一の機会であることも研修を通じて理解できた。

結論として、現行審議方法を見直すことで一致した。

○日本共産党野田市議団

「予算決算の意義・目的とは何か」など基礎的な内容から、分かりやすく説明をしていただいた。とても吸収しやすく、意義のある中身であった。

特に、重要だと感じた点は、数字のチェックで終わらせるのではなく、人口規模、財政力、事業の効果、経費など細かく分析して、突き詰めていくことが大切だと思った。また、他市における予算修正や修正動議も詳細に解説されて、大変参考になった。

○市民ネットワーク

以前より気になっていた予算決算審議についてお話を伺うことができたことは有益であった。審議手法の指摘が多くの議員活動そのものにつながっており、これまでのやり方自体を振り返るきっかけとなった。政策・事業のあり方を審議するために、日々の市民の声をただぶつけるのではなく、行政として執行している事業の調査、研究、他市との比較等、議員力が試され身の引き締まる研修であった。

何から始めるかの具体案を協議していく時期だと思いました。

○無所属の会

市民の声がしっかりと届くようにするために、数字だけ追うのではなく、今ある政策、そして事業に関して、しっかりと結果が出されているのかを審議するために一人一人の議員が予算・決算につける体制をとるために予算常任委員会の必要性を感じた。また、中立、公平性をとるために議長を委員にしないというやり方もあることを知り、取り入れてみたいと思った。

また、行政評価や事務事業評価も取り入れて、適正に執行がされていることが分かりやすくなるため、見てわかる評価シートの必要性を感じた。

○地域クラブ

廣瀬和彦先生は、野田市の予算審議手法に、「奥ゆかしいですね。もっ
たいないですね。」と話された。

これまでの概念にとらわれることのない審議に取り組む必要がある。

2 ICTの導入について

○政清会

効率性の高い議会活動を行うにあたり議会のICT化はもはや不可欠で
あり、事務通知関連の効率化や資料やデータ整理などにも有効であり野田
市議会として早急な導入を求めている。なお、データの共有だけでも
という意見もあったが、考え方としてICTやタブレットの運用に関する
取り決め事項の問題であり、運用にあたり十分な検討が必要である。

○公明党

・メリット・デメリットがあるが、全体的に導入へ向けて検討していくべ
と考える。

・効率性、ペーパーレス化を図る意味でも予算が許せば、早期にタブレッ
トなどの導入を行っていければと思う。

・添付資料などは全て、そのタブレットで閲覧などできるようにしたい。
また、議場にも持ち込み可能にし、ネット環境整備も行い、一般質問な
どでもモニターとの接続をはじめ、検索をできるようにと、タブレット
の有効活用ができる環境をつくるべきと考える。

○民主連合

タブレット端末を用いてのペーパーレス市議会を実現している自治体が
増えており、野田市議会においても、時代の流れとともに避けて通れない
問題なのかと認識している。埼玉県飯能市では、2012年から市議会と市が
一体となって資料のペーパーレス化に取り組んでおり、年間10万枚の印
刷費を削減する効果を生み出していることも事例として挙げられている。
野田市においても政務活動費の有効活用を図る中で、ICTの導入を目指
すべきと考える。

○日本共産党野田市議団

他市におけるICT化の導入状況について詳細に解説があり、導入した場合のメリット・デメリットについても学ぶことができた。印刷コストの削減、人件費等の大幅な節減やスケジュール管理、災害時における緊急連絡手段などたくさんのメリットがある。一方で、紙のように自由に書き込むことが出来ないことや予算書や決算書など見開きの資料に関しては、文字が小さくなり、見えにくい等の欠点もあることから検討の余地もあると感じた。

○市民ネットワーク

ご指摘いただいたように、何のためにその導入によって何をしたいのか、費用対効果と経費の問題を精査し検討してみてもよいのではないかと思う。

既に県内いくつかの自治体議員の情報では非常に使い勝手がよく便利に活用しているとの声を聞くが、ICTについては得手不得手があり研修を行い宝の持ち腐れとならないよう全議員の考え、意見を調整する必要があると思う。

○無所属の会

ICT活用によって議員に対しても大切な情報を順次行き渡らせることで、迅速な対応が可能となること、経費の削減や事務の負担軽減が図られることがわかった。

また、アイパッドを使用することによって、情報を共有できるというメリットもあり、便利であると思う。

野田市議会においてもICT導入をセキュリティ強化のもと進めていければと思う。

○地域クラブ

時代の流れであり、効率のよいものにしていきたい。導入しても使いこなせなければ意味がないので、しっかりと学んでいきたい。

3 今後の議会改革の方向性について

○政清会

議会基本条例の制定について、市議会レベルで6割を超える状況があるが、問題は議会改革の影響を住民が実感・評価をしているかどうかの問題である。野田市議会においては、市民に開かれた議会・興味を持たれる議会づくりが必要であると考え条例化せずに、改善できることから積極的に取り組んでいくことで合意形成し現在に至っている。

・議会報告会についても他市の実施状況を見るに、条例化したから開催するというマンネリ化や参加者の固定化等問題点が多く、打開策が見いだせていないため反対である。

・議員間討議については困難であり、まずは委員会質疑の向上策を考えていきたい。

・各委員の審査に臨む姿勢と意識改革が重要ではないかと考える。

上記のような意見が議員各人より提案された。

○公明党

・議会の見える化を進めていくべきと考える。

・基本的には、他市で進められている改革については、全て行う方向で進めたいが、開始後、また、元どおりに戻したりしている所もあるので、一度、野田市でも、短期間、試行的に行った上で判断すれば良いと考える。

○民主連合

現行の予算、決算審査方法の見直しは、長年継続されていただけに最初の1～2年は戸惑いが予測されると思うが、問題が生じた場合は、その都度協議をする中で改善策を見だし、焦らず、無理せず、野田市独自の議会改革を目指すべきと考える。(本年決算期より)特に常任委員会の活性化、問題点を集約して委員間の議論の向上は必要と考える。

このようなことから議会改革特別検討委員会の設置を望む。

○日本共産党野田市議団

基本的なところから丁寧に解説をいただいたが時間が押す中で、もう少し特化した自治体の事例も紹介いただいた方がよかったと思う。

特に感じたことは、市民の目線で様々な意見を議会で十分審議することで市としての方向を決めていくことが大切であり、なによりも「市民に開かれた議会」の実現と議会の効率化を目指し、市民に認めてもらえるような議会改革が必要だと感じた。

○市民ネットワーク

改革の目的は、「いかに市民目線で行えるのか」ということか。ランキングを上げる為でもなく、職員や他市の状況の把握も行ない、本当に必要な改革について考え、行動に移していけるようそれぞれの議員が研究していければいいと感じた。

○無所属の会

議会改革にはいくつかの課題があった。まず1つは議会改革の影響を住民が実感・評価しているかどうか。2つ目は、議員間討議はほとんど使っていない市町村が多いことである。まず1つ目の課題として、議会報告会でどこまで住民の意見が聞けるか。その意見に対し改めて進捗を伝えられるかが大切だと言う。それによって市民は実感・評価する。また、議員間討議の中で、相手を尊重して議論ができるのか。それぞれ会派の方向性があるから、本当の話し合いができるのか。それをクリアして気軽に話をできる場にするならば、議会改革の意義があると言っていた。見かけだけの改革にならぬよう、他市の事例をもう少し調査していきたいと思う。

○ 地域クラブ

議会報告会を開催している自治体のデータを示していただいた。開催して市民からの声、要望などしっかり報告していることが、次に開催した時、参加者が増加している。

野田市においても、議会終了後、報告会を開催し、開かれた議会、市民

に身近な議会を目指したい。
